

# 区画・再開発 通信

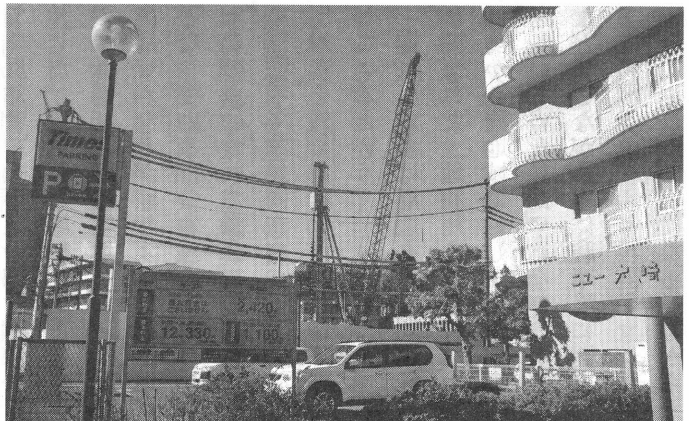


●区が作成したマンション再生計画を無視した再開発事業推進

【品川区大崎西口駅前】さる一月二日に再開発準備組合主催で開かれたニュー大崎マンション区分所有者対象の「再開発事業フレイム説明会」は、異様な風景だったという。出席者はおよそ五九名ということだが、見知らぬ顔の人物も少なくなく同マンションの権利者以外の者が三〇名近くいたという。フレイム説明だといいいながら未だに数字の根拠も示さ

ず出席者の質問にも答えず、「個別説明で」と逃げてしまった。もつぱらとなり建設予定の再開発タワーマンションのキッチンだの間取りなどの宣伝に終始していたという。同地域では、前後して五棟あるマンションの棟ごとに権利者を集め説明をしたようである。デベロッパ・ゼネコン側の思惑は、西口駅前地区でなるべく大半の住民を転出させることにある。そうすれば同地区の大半を事務所棟にして高く処分できるということのようだ。

この間、同地域では、大手デベロッパ・ゼネコンが九三〇〇㎡の敷地に容積率を八〇〇%をもらつてとにかく目いっぱい売上をあげることを主眼にあれこれの市街地再開発事業の準備をしてきた。しかし他方同地域は、品川区が「マンション再生計画」を立てていた地域でもある。旧耐震基準時代の築四〇年を経たマンションなども立ち並ぶ地域だけに、これまで住民、区分所有者が、安心安全なマンション居住、お店づくり



クレーンは隣の三丁目再開発工事のもの

を維持・発展させるための方策をあこれこれ話し合ってきたところである。「再開発事業フレイム説明会」は、デベロッパ・ゼネコンがこうした地元住民による計画や話合いの経過を尊重せず、乱暴にいまあるマンションを取っ払い市街地再開発事業だけを流布する話となっている。

(二月二日、編集部)